

平成 26 年 7 月定例会

教育委員会定例会会議録

書記 伊 東 英 二

書記 鈴 木 和 賀 子

塩竈市教育委員会定例会会議録

◆日 時 平成 26 年 7 月 18 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 2 時 45 分

◆場 所 塩竈市第一小学校 会議室

◆出席委員

委 員 長	柴田 仁市郎	委員長職務代行者	太田 忍
委 員	池野 暢子	委 員	山田 達磨
教 育 長	高橋 睦麿		

◆事務局

教 育 部 長	菅原 靖彦	教育総務課長	会澤ゆりみ
生涯学習課長	渡辺 常幸	学校教育課長	高橋 義孝
市民交流センター館長	本田 幹枝	教育総務課長補佐兼総務係長	伊東 英二
教育総務課専門主査	鈴木 和賀子		

◆定例会次第

- 1 開会
- 2 前回会議録承認
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 議案
 - ①議案第 16 号 塩竈市青少年相談センター運営協議会の委員の委嘱について
 - ②議案第 17 号 平成 26 年度塩竈市立義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針について
 - ③議案第 18 号 浦戸小中一貫教育について
- 5 その他報告
 - ①児童生徒状況一覧（平成 26 年 6 月分）
- 6 閉会

1 開会 午後 2 時 45 分

2 前回会議録承認

池野委員から報告、承認

3 会議録署名委員の指名

山田委員と高橋教育長を指名

4 議案

(1) 高橋学校教育課長から、以下のことについて説明

①議案第 16 号 塩竈市青少年相談センター運営協議会の委員の委嘱について

(委員全員異議なし) 原案のとおり可決

[主な質疑]

なし

(2) 高橋学校教育課長、会澤教育総務課長から、以下のことについて説明

③議案第 18 号 浦戸小中一貫教育について

(委員全員異議なし) 原案のとおり可決

[主な質疑]

・ 山田委員

中学校から浦戸の特認校に入学する生徒が、カリキュラム等で入学しにくくなるといった問題点はないか。

・ 高橋教育長

浦戸の場合は、特認校制度を活用しているため、授業については現行の学習指導要領に則って行う予定であり、問題はない。

来年度からは浦戸の自然やマンパワーを生かした浦戸科の授業を付加価値とし、小学校 1 年生から 4 年生に英語を取り入れることで中学校へつなげることとしている。

しかし、特認校制度という観点から中学校から入学する生徒を阻害しない形で進めていこうと考えている。

・ 柴田委員長

校歌の一部を変えるとされているが、作詞家の著作権は確認しているのか。

- ・高橋教育長

これから確認する。中学校の校歌を小中一貫校の校歌とすることは、島の方々への配慮をしている。ただ、三年を意識した三年の業という部分のみを変更しようと考えている。

- ・柴田教育委員長

しおがまの郷土を学ぶという教科はあるのか。

- ・高橋学校教育課長

学校で教科として位置づけてはいないものの総合的な学習の中で、自分の住む町を学ぶというフィールドワークを行っている。子どもたちが自ら住む町で研究テーマを決め、自分達で調査する。例えば、造り酒屋さんなどを調べ、他市町村のそれとの比較をし、将来的な展望・提言につなげていく等を行うのが総合的な学習である。

- ・柴田委員長

それですと、担当している先生の裁量で大きく異なることと思うが、各学校で故郷を知り郷土を愛するという心を醸成していく時間が必要ではないか、ひいては自分の国を愛することにつながっていくのではないかと思う。その意味で、浦戸科がとてもいい意味を持つと思う。

- ・高橋教育長

地元について知るといって、社会科で「私たちのしおがま」という副読本で郷土の歴史・地理を学ぶ。

愛国心、郷土愛については精神的なものなので、道徳科で学ぶ。しかし、浦戸科のように郷土愛そのものを目指した教科はない。各学校で、ふるさと教育としていろいろな企画を行っているが、内容は、学校によって様々である。

- ・太田委員

在籍児童の 80%以上が島外から通学しているようだが、今後は、浦戸の子どもは増えるのか。

- ・高橋学校教育長

浦戸には未就学の子どもの数名いると聞いている。

- ・太田委員

逆に浦戸の子どもが島外の小中学校に行くことはあるのか。

- ・高橋学校教育課長

1 人いる。昨年度、6 年生の児童が、中学校から島外の中学校へ通っている。

- ・高橋教育長

浦戸特認校を立ち上げたときの資料で、平成 17 年度で浦戸在住の在籍児童はいなくなるとの予想でしたが、浦戸在住の方から地元に戻

ってきた方が出てきたこと、また、現在、30 数名が集まるというのは浦戸の持つ魅力なのかと考えている。教室や指導体制を考えると 40 名弱が適正人数かと考えている。

- ・ 太田委員

浦戸から学校を無くさないでほしいという気持ちはわかる。学校は文化の拠点なので学校を無くさないということは、文化のためにも大切なことかと思う。

- ・ 高橋教育長

特認校制度は、浦戸の島から学校を無くさないということで、県内小中学校に先駆けて作った制度である。しかし、この制度がうまくたちで進められているのは浦戸だけである。これは、浦戸の持つ魅力と小中学校の教師が乗り入れることによって複式授業を行わないという教育活動からだと考える。それを繋げ発展させていきたいと考えている。

5 その他報告

(1) 高橋学校教育課長から、以下のことについて報告

① 児童生徒状況一覧（平成 26 年 7 月分）

〔主な質疑〕

- ・ 柴田委員長

暴力行為の項目は、喧嘩でしょうか。子どもたち同士が喧嘩をするということは少なくなっているのか。

- ・ 高橋教育長

手をだすということは、ほとんどない。一般的傾向として突然切れる子どもが多いという傾向はある。

- ・ 山田委員

5 月に比べ、不登校傾向の生徒が減り、その数相応分の不登校が増えているのだが、不登校傾向の子どもが不登校となっているのか。

- ・ 高橋学校教育課長

はい。様々な手立ては講じているのだが、累積欠席日が 30 日を超えると不登校にカウントされる。

8 閉会

午後 2 時 00 分

《會議録署名委員》

4 番委員

(山田委員)

5 番委員

(高橋教育長)